

# 評価報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

. 理念に基づく運営	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計 30</b>	

訪問調査日 平成 19 年 5 月 29 日  
 調査実施の時間 開始 10時 00分 ~ 終了16時 50分  
 訪問先事業所名 グループホームはるかぜ荒田  
 (都道府県) 鹿児島県  
 評価調査員の氏名 氏名: 安徳 ケイ子 氏名: 福崎 順子

事業所側対応者  
 職名 管理者  
 氏名 朝隅 昌子  
 ヒアリングを行った職員 ( 4 )名

### 項目番号について

外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

### 記入方法

[取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価報告概要表

### 【評価実施概要】

事業所番号	4670102518
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホームはるかぜ荒田
所在地 (電話番号)	〒890-0056 鹿児島市下荒田2丁目1番27号 099-812-3866 (電話) 099-812-3866
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	2007/5/29

### 【情報提供票より】(平成19年 4月 1日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 10月 16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数(3・4階)	9 人	常勤 4人, 非常勤 5人, 常勤換算 7.1人	
職員数(5・6階)	8 人	常勤 4人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.1人	

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	6階建て	3階 ~	6階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

#### (4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性 3 名	女性 14 名
要介護1	10 名	要介護2	5 名
要介護3	2 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	名
年齢	平均 82.4 歳	最低 70 歳	最高 92 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	・田上記念病院 ・西歯科
---------	--------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

繁華街の中にあるビルを改装して4フロアに2ユニットあるグループホームである。健康で安心して自分らしい生活を継続できるよう、日課にラジオ体操・散歩・下肢筋力運動・嚥下体操を取り入れ、支援している。理念のひとつである口腔清拭の徹底は勿論のこと、歯科受診並びに指導、又、バランスの取れた食事で口腔機能向上を図り、毎日美味しく食事が取れることに力を注いでいる。利用者の愛犬チビがアニマルセラピー効果を発揮し、ホーム全体に明るさ・元気・癒しを与えている。利用者と職員が一体となって食事の支度・掃除・町内会の清掃・神社参拝など楽しんでいっしょに、「窓を開ければ櫻島、今日も元気にご挨拶」に始まる利用者全員で作詞された、はるかぜ荒田の歌(海の替え歌)のとおり、利用者・職員ともども生き生きと過ごしている。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果はミーティングで報告される。そこで改善計画シートに改善目標を設定し、改善に向けた計画内容を話し合い、具体案の検討・実践につなげている。前年はトイレに手づくり「使用中」の札をかけて利用者が安心して排泄できるようになった例など4項目について改善されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価のねらいや活用方法を全職員が理解し、自己評価を職員全員で行っている。ややもすれば、マンネリになりがちな職務を年1回、評価することでいい刺激になっているようである。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	利用者代表・家族代表・町内会長の出席のもと、平成18年に12月に発足され、3回実施されている。運営推進会議について、構成メンバー・ホームの概要及びあり方・外部評価等の説明、報告がなされている。運営推進会議の内容を市町村・地域公民館・利用者家族等に通信する努力が、今後の参加メンバー増加につながり、さらなるホーム発展を期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見・苦情に対して、家族会や面会時に、職員自ら声をかけて会話の中から引き出すよう心がけている。意見箱なども設置しているが、現在は不満・苦情は出ていない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入し、地域住民の一員として地域で必要とされる活動や役割を担っていく努力をしている。

# 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を事務所全体で確認し、従来の理念を基に地域生活の継続と支援を強化する理念を謳っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、申し送り後に職員一同でホームの運営理念を唱和し、日々のケアの中で理念が反映されるよう、努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、班長の役割分担もしっかりしている。月に1回の早朝清掃・小学校の運動会・文化祭など利用者と共に積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全体で行っている。外部評価の結果はミーティングの中で報告し、改善に向けている。職員にとってはマンネリ化を防ぐ一つの刺激になっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	12月に家族会とかねて第1回目を開催して、現在まで3回実施されている。(偶数月に開催) 会議では事業所からの報告、参加メンバーの質問、意見、要望を受け、お互い話し合える関係ができてサービス向上に活かせる基盤ができてきた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員は市から2～3回の派遣をもらっている。市町村担当者への働きかけはしているが積極的な協力が得られていない。		運営推進会議をはじめホームの行事等、地域の関係者(婦人会長・老人会長・警察官・消防士等)に働きかける活動が望ましい。運営推進委員会の結果報告を関係機関に、まめに通信することが今後の協力につながると思われる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問が多いので声かけ、報告がよくなされている。随時、電話にて様子を知らせている。定期的に年4回の新聞発行、月1回の行事予定便り・金銭管理など報告し、家族のサインをもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回忘年会をかねて、家族会を実施している。意見や苦情に対して、記録・対策ノートが作成されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の異動は文書にて報告している。職員の異動は訪問時に管理者から口頭で紹介し、引き継ぎの期間をとり、スムーズに移行できるよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用後1ヶ月以内に研修を実施している。事業所内外で開催される研修やセミナーに多くの職員が受講できる体制を図り、受講者はミーティング等で報告・感想を発表している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人系の事業所管理者会が、月1回開催され、職員への報告並びに情報交換もできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前に施設を見学をしてもらい、職員や利用者との交流を図り、本人、家族が納得した上で入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の家事や梅干・らっきょう・切り干し大根作り等、利用者の経験を活かしてお互い協働している。利用者の愛犬を中心に、支えあう関係ができています。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話しながら、言葉や表情から思いを気づき利用者希望・意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いや家族の意向を聞き、職員全員の意見を取り入れ、介護計画を作成している。利用者が愛犬と共に散歩に出かけ、なじみの友人と会話やお茶を楽しんだり、地域行事に参加する等の地域密着型プランもできている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間が終了する前に見直しをしている。又、状態が変化したときは随時、本人・家族・職員間で検討され現状に即した見直しが作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護職員を配置して健康面での管理を行い、通院や入院時の送迎など柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医になっており、基本的には家族同行の受診となる旨を説明し、同意を得ている。不可能な時は職員が代行支援を行い、診察の結果は電話で報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の気持ちを大切に、家族・医師・看護師を交えて話し合い、安心して終末期を過ごして頂けるよう支援している。急変時にはすぐ対応できるよう、ホットラインシステムがあり、医療機関との連絡も密に行われている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングの中で利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応になっているかを確認し常に心がけてケア実践に取り組んでいる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ほとんどの利用者が買い物・外出・散歩を楽しんだり、花を育てたりして、自主的に活動されている。一人ひとりの希望を取り入れた支援ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたいものを献立に取り入れ、個々の力を活かしながら調理・盛り付け・後片づけ等を職員とともに行っている。同じテーブルを囲んで楽しく食事をしてきた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調や希望を確認し、一人ひとりの意向にそった支援ができていたが、現在は、午後からの入浴となっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	漬物作り・習字・鉢植えや花の手入れ等、得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、支援できている。木市や小学校の運動会など地域行事にも参加し、楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物・散歩・神社参拝など、愛犬と共に、歩行困難者は車椅子を利用し、一緒に戸外に出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしをしている。無断で外に出かける利用者にはスタッフが常に見守り、買い物や散歩に同行する配慮がなされている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て年2回昼夜、利用者を含めた避難訓練を行い、避難経路の確保、消火器の使い方の訓練が実施されている。地域住民の協力体制は運営推進会議を通して呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は1週間に1回、管理栄養士の指導を受けている。栄養の偏り、水分不足がおこらないよう、毎食時・10時・15時にマグカップ1杯の飲用を促し、注意している。利用者の状態に応じてきざみ食・流動食の工夫がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花が玄関・フロアー等すべての場所に置かれて、季節感を取り入れた五月人形や飾り付けがあつて、心安らく居心地の良い空間作りになっている。食事の準備中の音、ご飯の炊ける匂いなど五感への刺激が感じられた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理タンスと畳み式ベッド以外はすべて私物で使い慣れたものや好みのものを持ち込み、居心地よく安心して過ごせるように整えられている。		